バス停のある風景

連載14回

山形県西田川郡温海町温海（あつみ）（現地名／山形県鶴岡市温海（あつみ））

取材日／2004年9月、2012年3月

バス停名「長喜屋前（ながきやまえ）」あつみ交通（現在は庄内交通）

この時、おふたりのご婦人は私には「ぐりとぐら」に見えたのです

新しくなった街で再会できた往時のモデルさん（?）はそのとき米寿を迎えていた

立派な屋根やベンチが用意されたものもあれば、ポールが１本、ポツンと建つだけのものもあるバス停。それは確実にバスがやってくる証。そんなバスと人が交差する「点」を追い続ける写真家の視点を見る。

例によって秋から冬にかけて曇り空が続くのが日本海沿いです

市町村合併で活気を取り戻した街（!?）で

このお2人の後ろ姿がなんだか可愛らしくユーモラスで、まるで絵本に出てくる「ぐりとぐら」のキャラのようでもあり、つい愛おしくなって撮影した。日本海が見える温泉街の海岸線でのことだった。

2012年3月に、この写真を掲載している写真集をプレゼントするために2人の連絡先が不明のまま再訪問した。このバス停から最も近い個人経営の商店に行って写真を見せると、ご存知だという方が案内してくれた。右のご夫人の名前は「おもよさん」とのこと。ご自宅を訪ねて再会を果たすことができた。時は経ち、おもよさんは米寿の御歳となられていた。

案内して下さった方に聞いたところ、息子さんが鬼籍に入り、がっかりしてその後1人暮らしを続けているとのことであった。写真集に写っている姿をご覧になり、「これ、自分だね」と笑っていただけた。写真集は「もう身辺整理している最中だから」と遠慮されたが、せっかくだからと置いてきた。いまこの原稿を書きながら、ご健在ならば93歳になっていることを思うと、このときにお会いできたことが光栄に思えた。

ところでこの地を訪れると必ず温海（あつみ）温泉に入って、コーヒーを飲んだり少しの時間滞在することにしている。歳月が経過して市町村合併で鶴岡市になった。僕が見る限り市町村合併が成功している例は少なく感じるが、ここは活気が出ている気がする。温海（あつみ）川沿いの足湯を併設したカフェが、若い女性などでにぎわっているのが道路から見えることも、その印象の一因になっているかも知れないと思った。

《写真作家・柴田秀一郎（しばた しゅういちろう）》
1963年東京都生まれ、
杉並区出身 日本大学法学部卒 写真家・竹内敏信に師事
1999年「現代写真研究所」修了
2005年「第11回酒田市土門拳文化賞・奨励賞」受賞
2006年「日本カメラ」連載
2010年　写真集『バス停留所』出版（リトルモア）
講談社「バスマガジン」連載中、
八重洲出版「Old-timer」寄稿作家。個展&グループ展多数。
1999年より、日本全国のバス停を取材して、
作品と文章にまとめている。2014年1月末日に、
一部上場会社を円満退職して、フリーランスに。
公益社団法人「日本写真協会(PSJ)」
会員、「日本旅のペンクラブ」
会員、「日本バス友の会」
会員、「3.11を忘れない写真家の会」実行委員
<作品収蔵>土門拳記念館　http://syashinkas.com/

バストピッ!! BUS TOPICS

『ここにバス停、作って下さい』って言ったら本当にできちゃった!?

2015年3月にこれまで無かったバス停が突如、作られた。「新京成バス「ハワイ通り」の上り」がそれで、実は筆者が日本テレビ系列「ワケありレッドゾーン」(2015年2月放映)という番組に出演した際、「ここにバス停があったら良いですね」という発言し、どうやらそれがきっかけで、本当に上りのバス停が誕生した説が浮上。果たしてそれが真実なのか、はたまた筆者の自意識過剰なのか、を検証してみた。

撮影・執筆■柴田秀一郎

ハワイ通り近くを走る下りのバス

下りのバス停。下りはなんと3系統のバスが停車する

〝ハワイ通り〟というネーミングの基になったシュロは5本を残すのみとなってしまった

台湾風の街路樹が並ぶ「タイワンフウ通り」を走る

これが上りのバス停。並ぶシュロの前に電柱が寄り添うように立っている

DATA
○バス停名称　[ハワイ通り（上り)]　○バス事業者　新京成バス
○所在地　千葉県松戸市小金きよしケ丘

この[ハワイ通り]という名称の発祥は、昭和37年ころたくさんのシュロの木が林立するストリートにしてハワイの雰囲気があったというわけで採用されたものという。

当時は自動車の交通量が少なく、歩行者の方が多かったほどだったようだ。道路の中央にもシュロが植えてあったために、その後に交通量が増えると交通事故が多発したためシュロの木は切り倒され、今は数本が部分的に残る程度になってしまった。往時の名残があるのはほんの一角だ。

テレビのロケ当時は下り側のみバス停があり、上りは無かった。そのバス停が無い上り側にだけ、シュロが数本残っていた。TVの中で「通りの名の面影があるところにバス停があるといいなぁ〜……」

と、筆者が全国の視聴者に向けて発言したところ、意外にも全国ネット放送だっただけあって、たくさんの反響があった。

そしてなんと「その後その地名にふさわしい場所にバス停ができた。きっとTVで柴田さんが発言したからですよ」とTV番組のスタッフから連絡があった。早速そのことを検証するために2017年9月〜10月にかけて真偽検証(!?)のため、取材に出かけた。

番組にも登場し、昔のことを語ってくれた創業40年のそば屋「福寿庵」を訪問して聞き込みをスタートすると「番組放映の以前から、上りにバス停が無かったから陳情していた。そして陳情の主な声はこの店舗があるマンション住民だった」というコメント。

そうなると筆者の発言は無関係ってことですか？　そこでバス会社の営業所に確認したところ、担当者の重久さんは僕のTV出演の発言も知っていてくれていた。そして先に陳情があったからバス停を設置することになったとのことだった。

該当マンションの前には店舗と駐車場があったこともあって、バス停が設置できなかったから、どこにするか改めて検討していたときに、ジャストタイミングでTVで取り上げられて、下りのバス停の対岸ではなくて、少し離れたシュロの木々が残る場所になったという。つまりTVでの発言を参考にしたとも。

そういうわけで、筆者の発言効果も若干はあったと考えたい。ちょっと希望的観測もあるが、そういうことで。

さてこのバス路線を実際に乗ってみる。始発のJR常磐線北小金駅から右回りの「北小金駅行き」に乗り込む。この駅周辺はもともと宿場町で、明治以前からにぎわっている街だったそうだ。しばらく走行してハワイ通りのバス停を通り、国道6号を東京方面にほんの少しだけかすめて走ってすぐ左折、「たいわんふう通り」の650mある並木道を走行する。この名称も興味深いがマンサク科の街路樹だから〝台湾〟なのだそうだ。そして「小金団地」をぐるっと回るバス路線なのだ。

団地のある場所は、もともとは原っぱで、戦後に団地が作られたそうで、道幅が広くて木々が多いのが特徴である。余談だが団地から近い新京成電車の路線は戦争前、陸軍の鉄道連隊があったそうである。

もうひとつ余談だが駅前にどこにでもあるマツモトキヨシがなぜか宿場町の歴史碑の前にあって黄色の看板が情緒を台無しにしているのが気になって調べるとなんと会社創業の地なのだそうだ。とても色々興味深い土地だとも思った。